明神岳、薊岳、桧塚奥峰（台高）

２００５年１１月１９日、２０日　No.349

参加者：じんじんさん、こうたろうさん、隊長

◆コース

11月19日　大又林道終点(9:50)～明神平（テント設営）～薊岳～明神平(16:00)

11月20日　明神平(7:30)～明神岳～桧塚奥峰～明神平（テント撤収）～大又林道終点(14:00)

鈴鹿幕営仲間の恒例の山行は、今回は参加者が少なかったので、色々と候補地を検討した結果、台高の明神平となった。すでに紅葉の時期は終わり、落ち葉の舞う晩秋のブナ林でのんびりと過ごすのもいいだろう。二日とも好天に恵まれることはあまりないが、今回は初日がガスの中だったが、二日目は見事は青空が広がってくれた。霧氷と青空がベストマッチだった。

9時30分が待ち合わせ時間だ。鈴鹿幕営グループのメンバーは、日本経済を支える働き蜂が故に、昨夜の勤務を考慮して集合時間は遅く設定している。といっても、大又林道終点からの入山なら、時間的にゆとりがあるので、その日の状況に応じてルートを設定できるのが強みだ。しかし、大又は奈良県の山深いところになるので、滋賀や三重からだとアプローチに時間がかかるので、9時30分は一般的な時間設定だろう。

丹生川上神社

前回の山行で、三重県側から配車するのに随分と時間がかかってしまったので、時間にゆとりを持たせて、自宅から登山口までの所要時間を3時間と見積もった。関から東名阪自動車道に乗り、針ICで下りて榛原まで行き国道166号線を東進する。途中で右折して東吉野村を目指し、大又林道に入る。丹生川上神社あたりのモミジの紅葉が見頃を迎えており、まだ少し時間にゆとりがあったので、近くを少し散策してみた。渓流と紅葉がベスト

Copyright (C) 2005 Photo Club All rights reserved. Site design by k.kanamaru

マッチで、天気さえ良ければ絶好の撮影ポイントだろう。途中で工事や渋滞もなく自宅から2時間半で大股林道の終点に到着した。

林道の終点の紅葉も素晴らしく、雲間から射し込む陽射しに輝く紅葉に思わずファインダーをのぞき込んだ。この日は土曜日であったが、砂防工事の生コン車が入れ替わりやってきていて、渓流や紅葉とミスマッチの感があった。9時半過ぎに全員集合し、いざ出発。初めての秀峰なら気分も高まるところだが、勝手知った山域なのでいつもと変わらぬ出だしだった。ただ、渓流沿いの林道から垣間見る山は、どこもガスに隠れていて、天気予報に反する状況をどう解釈しようか悩むところだ。

大股林道終点の紅葉

ゆっくりと林道を歩いていると、少しずつ体が温まってきた。約2ヶ月ぶりのテント山行なので、重いザックが体に馴染まない。しかし登りは、ゆっくりと歩いても2時間とかからないので、のんきなものだ。明神滝で一度休憩を入れる。この滝を過ぎると谷を離れ歩きやすいコースとなる。朝早くから登ったのだろうか、そのグループの下山が始まっているようだ。霧氷が美しかったとの情報だ。ガスが凝結して木の枝に付くと霧氷になるようだ。行く先を見上げると木々が白くなっている。

明神平の霧氷は素晴らしいが、すべてがガスに隠れている。ガスが晴れて青空が覗けば、さぞかし素晴らしい光景が展開するところだが、山の天気は意に反することの方が多い。しかし霧氷に出会えたことは予想外であり、今年の初物になったので、好奇心が多少なりとも刺激された。さて、テンバ場をどこにするかが問題だ。天気さえ良ければ桧塚あたりを幕営地に考えていたが、この天気ではキャンプ適地の明神平が無難だと判断した。早速テントを設営する。ブナ林のテン場は実に快適だ。

明神平

テント設営後、昼食を食べて、午後の時間を薊岳の散策にあてる。薊岳は明神平から東に派生する痩せ尾根の途中にあり、多少の起伏があるが約1時間ほどで行ける。ブナ、ヒメシャラ、カエデが主体の樹林になっていて、展望はあまり良くない。昔植林されてであろう唐松が印象的だ。

木の枝には霧氷がびっしりとくっついているが積雪はない。薊岳の標高は1406mで、このあたりでは平均的は標高を持つピークだ。隣に木の実矢塚があるが、ガスで展望がないので足を伸ばすのは止めた。薊岳のピークは狭く、ゆっくりとくつろげるスペースはない。今年はツツジの当たり年で、シャクナゲの花の跡がそのことを物語っている。樹木が切り払われたかどうかは分からないが、展望は確保されていて高度感もありなかなか良い。

Copyright (C) 2005 Photo Club All rights reserved. Site design by k.kanamaru

先ほど10人程度のテント装備のグループとすれ違ったが、大又から上がり周回するコースを歩いているのだろう。テントの設営場所にもよるが、今夜は賑やかになるかもしれない。少し展望を楽しんでから来た道を明神平まで戻った。

昨夜は、松阪の山人、大阪の山人を交えて、遅くまで山談義にふけってしまった。これもテント山行の楽しみだろう。しかし22時はシュラフの中に潜り込んだ。体が温まってくるころに眠りについた。

テントから顔を出すと、朝日が樹林に射し込み、木々や落ち葉が黄金色に輝き始めていた。しまった、密かに日の出のシーンの撮影を狙っていたが、時すでに遅し。とりあえずはテントを出て、朝の気配が残るうちに明神平を歩いてみた。やはり朝の斜陽光は、なかなかいい演出をしてくれている。普段では見られない光景が広がり、あれやこれやと手を伸ばすうちに、的絞れないまま撮影時間が終わってしまった。朝寝坊していてはいい写真など撮れないということだ。

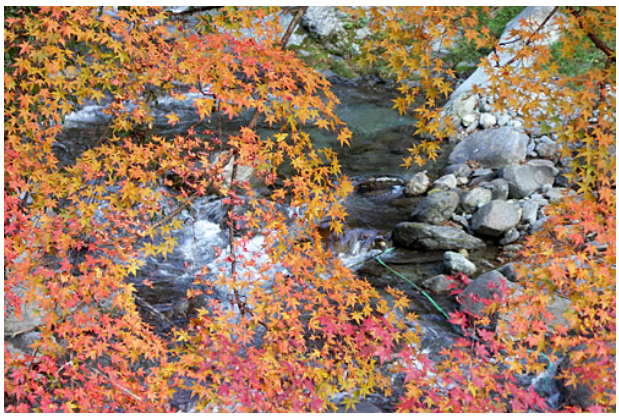
予定通り二日目は、桧塚をピストンした。抜けるような大空の下、霧氷のブナ林の散策は実に素晴らしい。風もなく穏やかで、大陸の寒気に台高がすっぽりと覆われているようだ。上を見上げて歩くとまるで冬山のようだが、足下を見るとまだ雪がないので晩秋といった感じだ。林床

Copyright (C) 2005 Photo Club All rights reserved. Site design by k.kanamaru

のスズタケは背が低いので登山道をはずれても歩きやすい。途中で、先発した松阪の山人が朝食をとられていた。目的地は同じのようだ。

桧塚に立つ。いつ来てもいいところだ、台高には鈴鹿のようは鋭峰がなく、優れた展望をもつ山は少ないが、数少ない中のひとつがこの桧塚奥峰だ。四周の山を見渡すことができ、ひとつひとつ山座同定をするのもおもしろい。熊野灘が白く光って見えていたのが印象的だった。

テント場に帰るとちょうど昼時だったので、伸びやかな時間のかなで昼食を楽しむ。その後テントを撤収し14時に下山した。行程にゆとりがあったので、味わい深い山行となった。



Copyright (C) 2005 Photo Club All rights reserved. Site design by k.kanamaru